



読売歌壇

小池 光選

白い歯が見えているから笑顔らし高校球児みな日にやけて

【評】練習に次ぐ練習で高校球児の顔はまっ黒。顔の裏表もわからない。真っ白な健康的な歯がみえて、こちらが表だとわかる。青春の笑顔がかがやかしい。

ひとり身を選んだ娘夕庭でみずから植えた花に水やる

【評】いろいろな人生がある。娘は生涯独り身であることを選んだ。それもいいだろう。自ら植えた庭の花に水やる娘、それを見守る年老いた母。しみみりとした秋風が吹く。真夜中に温り捜し目が覚めてああ猫はもう居ないと気付く

【評】いつも布団のなかに入ってくる猫。いないのでどうしたかと思って、死んだことに気付く。なんとさびしい秋の夜だろう。

甘い物禁じられしわれ誕生日のケーキ食む時無敵となれり

【評】ねそべれる猫のあくびの喉までも秋の清しき日さし差し入る

【評】夢の中までも箸をふりかざし何かわめきつつ母が追ってくる

【評】中国の山東省の夜の丘に叔父をしのびて拾う小右よ

杖ついて歩けるだけで嬉しいよ今日は蕎麦屋でエビ天丼だ

【評】「秋風に」からはじまる仮名の書仕上げたり明日は白内障の手術日

【評】秋の夜は悪き滑舌治すため大きな声で読む『平家物語』

名古屋市 山守 美紀

栗木 京子選

快晴の先が午後から読めずして洗濯物を干す順決める

【評】今は快晴でもすぐに豪雨が襲来するかもしれない。夏の天気の変動はまさに「読めずして」の状況。まず大きな物から干そうとしているのか。下句の具体が効いている。

「とこのう」のコピーはびこる温泉よこころの輪郭溶かしたいのに

【評】温泉やサウナに入ってさっぱりすることを昨今は「とこのう」と言う。だが硬くなった心身をほぐしたくて私たちは入浴するのではない。下句の発音が光る一首。

四歳はめくる仕草もまねて読む祖母を相手に先生きどり

【評】祖母を生徒にして遊ぶ孫。ページをめくる仕草まで真似をする姿が愛らしい。祖母の影響で本が好きになるといいな、と思う。

スリッパに「おかえり」と子の置き手紙三十年前夜勤の朝に

【評】芝居が跳ねて友と感想を語り合うオペラシティの夕食は楽し

【評】引き返すことなき橋に忘却の行き先として夕焼けを置く

【評】いつまでも残るものかな性差って女形は学ば女らしさを

【評】珍しく弾んだ妻の声を聞くメタカの水にホテイソウ咲く

【評】ひと筋の光る道あり琵琶湖より月へ登ってこいとささめく

新米の紙袋破れキッチンで一粒一粒拾ひつつ感謝

名古屋市 納谷香代子

俵 万智選

とどめおく為のはさみのあそびを干しつと思う朝のペランタ

【評】はさみというと、何かを切り離すというイメージだ。が、洗濯はさみはそうではない。こんなはさみもあるという小さな発見が素敵だ。たとえば人間関係だって、切るのではなくとどめるはさみもあるかもしれない。

もうつつむじなんて見えない子と並び歩けば同じ花に気づいた

【評】かつては自分よりずっと背の低かった子どもが、同じ目の高さで世界を見るようになった。これは、心の背丈でもあるだろう。

ハキハキと「戻ります」って言い切って充電始めるお掃除ロボは

【評】結局までは、部下か誰かの話と思った。その思い違いの誘導が巧みだ。こちらが本家で、人間の充電は比喻だったことを思い出す。

屋上でシャボン玉を飛ばすように放し飼いでいる独り言

【評】ガザ知らずウクライナ知らずいづれんとサシバの二羽が描く秋の輪

【評】秋日和つそでいいから風邪ひいたみたいな言い訳がほしかった

【評】銅鐸の音色を聞いてみたいけど誰も知らないその使いみち

【評】倍速で観られぬことのありがたみ映画館での映画鑑賞

【評】AIで生成された表情でいつかあなたに振られる気がする

【評】あらかじめ砂糖もミルクも断つてそれでもいいてくるスプーンは詩

名古屋市 たらりずむ

黒瀬 珂瀾選

秋の雲三刷け三刷け流れゆく真夏に逝きし姉の雲も

【評】夏雲とは違い、刷毛ではいたように小さくちぎれてゆく秋雲。その中の一つが今は亡き姉の顔に見えた。余人にはそう見えなくても、作者にはそう見えた。深い追慕の思い。秋風にやつと出会って街をゆく紫苑の模様のブラウスを着て

【評】ようやくと暑い夏も乗り越えた、という喜びが伝わりますね。極暑では気を回すこともできなかったお洒落を楽しむ秋です。

戦前は勝つ理由、戦後は負けし理由とくどく述べぬ競馬する人

【評】最良の馬の強さを雄弁に語っていた人が、舌の根も乾かぬうちに負けた理由をあれこれ言い出す。競馬の話ですが人間の本性が浮かびます。先の戦争の際もそうでした。

イロンもおれもひとりだ自分ではつくれなかったネットワークに

【評】燈火なりし戦争未亡人会一〇〇才の会長の死で終りゆきしと

【評】図書館の差し上げますのコーナーに『正法眼蔵』

【評】いつまでもあり

【評】そんなに長生きしたくないけれどその「そんなに」が案外長い

【評】ガガーリンは地球は碧しと讃美せり彼の見た星いづくとなりし

【評】横浜のシャゼリゼにて一箱の古本市を友と始めむ

【評】物思ふ時には遠くを見る子なりきこのごろ長き睫を伏せる

名古屋市 近藤 福代